

令和6年能登半島地震により形成された 土砂ダム調査への支援や対応を行っています



北陸地方整備局立山砂防事務所では、令和6年能登半島地震発生以来、北陸地方整備局の一員として、国土技術政策総合研究所等の土砂災害専門家の調査支援、河道閉塞（土砂ダム）の状況調査等について実施してきました。これからも被災地に比較的近い立山砂防事務所としてできる支援を行ってまいります。また、被災地に一日も早く平穏な日常が戻りますことを祈念申し上げます。

1月5日

国土技術政策総合研究所（つくば市）の職員、国立研究開発法人土木研究所（つくば市）の職員によるヘリ調査に、当事務所職員1名が同乗し、地形やランドマークを確認しながら目的とする多数の河道閉塞（土砂ダム）発生箇所への誘導を行いました。

1月11日

国土技術政策総合研究所（つくば市）の職員、国立研究開発法人土木研究所（つくば市）の職員による河道閉塞（土砂ダム）箇所の現地調査に、北陸地方整備局の一員として、当事務所職員1名が随行し、地上からの河道閉塞（土砂ダム）の状況確認や現地までの道路状況確認等を行いました。



立山砂防事務所職員は、土砂災害専門家による現地調査の支援を実施

1月19日

国土技術政策総合研究所が実施した上空からの河道閉塞箇所（土砂ダム）調査について、その後の状況確認のため、立山砂防事務所職員3名が北陸地整のヘリに搭乗し、河道閉塞箇所（土砂ダム）の状態の確認を行いました。撮影した写真や動画は北陸地方整備局、国土交通本省、国土技術政策総合研究所と共有し、状況判断に役立てられています。



上空より現地状況の確認と写真撮影を行う事務所職員



北陸地整保有 ほくりく号



ほくりく号に立山砂防職員が搭乗し調査実施

1月29日（Vol.40で紹介）

北陸地方整備局の一員として立山砂防事務所職員1名は、国土技術政策総合研究所職員1名とともに、河道閉塞（土砂ダム）箇所の投下型水位計設置状況と動作の確認を行いました。水位計は土砂ダムの監視体制強化に役立てられます。



投下型水位計を確認する事務所職員

また、同日には河道閉塞（土砂ダム）計14箇所の状況確認のため、北陸地方整備局河川部職員が北陸地整ヘリに搭乗し、状態の確認と写真撮影を行っています。

2月14日

河道閉塞（土砂ダム）計14箇所の状態確認のため、当事務所職員3名が北陸地整ヘリに搭乗し、状態の確認と写真撮影を行いました。

撮影した写真は、前回の調査結果との比較に役立てられます。

